“Affective Adjectives” の歴史的発達と使用頻度

—— Aphra Behn, Jane Austen, Virginia Woolf, Hannah More の形容詞 *Lovely* を中心に

矢　橋　知　枝

1. は　じ　め　に

Hannah More（1745–1833）が中心となって出版した Cheap Repository Tracts は，後期近代英語期に一般大衆に人気があった小冊子 Chapbooks の下位範疇として言及されることが多く，収集した Chapbooks をウェブサイトで公開している図書館でもその傾向が強い。

（1） *Cheap Repository Tracts* is the title of a popular series of chapbooks written in the 18th century by evangelist Hannah More. Cheaply produced and therefore affordable to many, these moral tales were intended to discourage political dissent and unscrupulous lifestyles. Politically conservative, the stories were made more appealing by the addition of woodcut illustrations.
（British Library）

イギリスの大英図書館も，（1）のように “a popular series of chapbooks” として紹介している。しかし，More は「当時世間に流通していたチャップ・ブックと呼ばれる廉価本を徹底的に研究して庶民の興味を探り，安い値段をつけて手に入れやすい本を出版した」（中野他 2009 : 18）とされ，Cheap Repository Tracts は「Chapbooks に意図的に似せた小冊子」であり，一線を画すべきものである。

Cheap Repository Tracts の研究は，教育史・社会文化史・児童文学史（Pedersen 1986 ; Kelly 1987 ; Hilton & Shefrin 2009 ; O’Mally 2018 他）などの観点から進められてきた。言語特性を中心にした研究はほとんど見られないが，出版年が 1795 年から 1798 年に限定でき，作者情報も明確であり，当時の社会との関わりに言及可能でもある。そこで，後期近代英語期における形容詞研究の研究資料として今後取り上げていくた

め，本研究で Cheap Repository Tracts の形容詞研究の方向性を見定めることとした。

幅広いジャンルの出版物が含まれる Chapbooks とは異なって“Characterization in Cheap Repository also expropriates both orality and formal elements of popular chapbook fiction”（Kelly 1987 : 152）とあるように，Cheap Repository Tracts のジャンルは「小説」と限定できよう。そこで，本稿では，限定形容詞の歴史的発達を論じた Adamson（2000）をもとに，More より「前の時代」Aphra Behn,「同時代」Jane Austen,「後の時代」Virginia Woolf の作品における形容詞 *lovely* の限定形容詞構造に関する量的分析を行い，More の形容詞使用傾向とも対比したい。

2. 先　行　研　究

2.1　形容詞研究

品詞という観点では，形容詞・副詞は名詞・動詞について 3 番目のカテゴリーと考えられている（Biber et al. 1999 : 504）。British National Corpus を用いて文学作品 15 万語の形容詞研究を行った Nikitochkina（2017）も，名詞・動詞に比べて研究対象に選ばれることが少ないものの，近年では統語論・意味論・談話機能・語彙範疇・類型論・限定用法的観点より，形容詞の特性同定に関する研究が進んでいるという（45）。また，形容詞の比較級・最上級を社会言語学的要因から論じるため，イギリスの新聞における 2 音節形容詞 17 種類を分析する研究（Watanabe & Iyeiri 2020）などもあり，形容詞研究の裾野はどんどん広がっている。

本稿で取り上げる限定形容詞語順構造に関し，初期の研究としては構造主義による Bloomfield（1933）まで遡ることができよう。記述英文法書である Quirk et al.（1985）や電子コーパスを活用した Biber et al.（1999）と Carter & McCarthy（2006）などを経て，現代英語における限定形容詞語順配列を記述することが可能となっている。

形容詞の語順構造と文法化についていえば，限定形容詞の意味変化と語順変化を文法化の視座から論じた Adamson（2000）が特筆に値する。

（2）　Through the cool lovely country follow’d you　　（“Empedocles on Etna” 45）

この（2）は Matthew Arnold が 1852 年に匿名で発表した詩からの引用である。この“the cool lovely country”における限定形容詞 *cool* と *lovely* の意味と語順より，Adamson はこの論文の発想を得た。そして，そのきっかけを作ったのが，この論文の献辞“For Peter Matthews”が捧げられたかつてケンブリッジ大学での同僚 Peter Matthews であった（Adamson 2000 : 60）。後年 Matthews は，英語の形容詞構造を精緻に議論した Matthews（2014）を発表し，Adamson（2000）を取り上げている。この（2）についても“*lovely* again means ‘beautiful’ and comes after *cool*. The adjectives will also be read with equal prominence . . . *the côol lôvely cóuntry*.”と音声面での解釈を

追加することで，形容詞 *lovely* の語順について言及している（Matthew 2014 ; 103）。

この Adamson（2000）は “It is a case-study in which syntactic-semantic change and leftward shift are again combined”（47）である。様態の副詞と文副詞の研究（Swan 1988）および談話標識の文法化研究（Finell 1996 ; Traugott 1995）の知見に基づき，Affective adjectives に属する形容詞について，強意語となる文法化の過程で形容詞の意味変化が語順変化をもたらすと主張する。また，注釈で現代英語での “a response particle”（Adamson 2000 : 62）としての談話機能への発達にも言及しており，現在でも形容詞語順構造の歴史的発達研究として参照されている。

2.2 Adamson（2000）

本稿では，Adamson（2000）で Affective adjectives の 1 つとされ，Matthews（2014 : 102）が “[Adamson（2000）'s] leading example” とする形容詞 *lovely* の限定用法について，歴史的発達と語順構造の観点から分析を行う。

複数の形容詞を有する限定形容詞構造では，それぞれの形容詞の意味範疇が語順を決定する上で大きな要因である。母語話者は無意識にその規則に沿った語順でもって，複数の形容詞を使用する。Adamson（2000）では，形容詞配列を決める意味範疇として “perhaps the most ambitious attempt” である Dixon（1982）による分類を採用している（42）。

表 1 The Seven Semantic Types of the Word Class Adjective

	意味範疇	形容詞例
1.	DIMENSION	*big, large, little, small ; long, short ; wide, narrow ; thick, fat, thin,* and just a few more items.
2.	PHYSICAL PROPERTY	*hard, soft ; heavy, light ; rough, smooth ; hot, cold ; sweet, sour* and many more items.
3.	COLOUR	*black, white, red* and so on.
4.	HUMAN PROPENSITY	*jealous, happy, kind, clever, generous, gay, cruel, rude, proud, wicked,* and very many more items.
5.	AGE	*new, young, old.*
6.	VALUE	*good, bad and a few more items* (including *proper, perfect* and perhaps *pure,* in addition to hyponyms of *good* and *bad* such as *excellent, fine, delicious, atrocious, poor,* etc.)
7.	SPEED	*fast, quick, slow* and just a few more items.

【出典】Dixon（1982 : 16）を基に作成。

この表 1 が Dixon（1982）の提唱する形容詞意味範疇 7 種類であるが，Adamson（2000 : 43）では意味範疇の順番と具定例の一部が次のように変更されている。

（3） 1. VALUE — *good, nice, excellent, horrible, delicious* . . .
2. DIMENSION — *small, long, thin, large, wide* . . .
3. PHYSICAL PROPERTY — *crisp, hard, soft, heavy, smooth* . . .
4. SPEED — *fast, quick, slow* . . .
5. HUMAN PROPENSITY — *gracious, kind, proud, generous* . . .
6. AGE — *new, young, old* . . .
7. COLOUR — *black, green, red* . . .

なぜ Adamson（2000）は Dixon（1982）の形容詞意味範疇を並べ替えたのだろうか。下記の（4）は，電子コーパス準拠の英文法書である Carter & McCarthy（2006）からの引用である。

（4） An example of most neutral sequence of adjective types
These **wonderful** [**evaluation**], *monumental* [size], *strong* [physical quality], *old* [age], *grey* [colour], *Indian* [origin], *log-carrying* [purpose] elephants of Northern Thailand . . . （Carter & McCarthy 2006 : 241）

この（4）は，Carter & McCarthy（2006）によれば英語母語話者にとって最も自然な形容詞配列を示す具体例の一つとされ，名詞 *elephants* を修飾する限定形容詞 7 種類とその意味範疇の配列が示されている。Adamson（2000）が並び替えた Dixon（1982）の意味範疇 7 種と比較すると，1. VALUE は “evaluation” に，2. DIMENSION は “size” に，3. PHYSICAL PROPERTY は “physical quality” に，と対応していることが伺える。この（4）はあくまで形容詞配列例であり，残念ながら Dixon の意味範疇 7 種類全てを網羅しているわけではない。なお，日英対照の認知言語学的視点から形容詞を論じた石田・松谷（2015）は，英語母語話者にとって自然な順序か否かで文体的・意味的差異が生み出されるため，形容詞配列は文法化と慣用に関係すると述べている（78）。よって，Adamson（2000）は，Dixon（1982）の意味範疇 7 種を英語母語話者にとって「無標」である順番にしている。

形容詞 *lovely* について，Adamson（2000）は上記（3）より，1. VALUE，3. PHYSICAL PROPERTY，5. HUMAN PROPENSITY に強意語 INTENSIFIER を加え，意味変化と強意語への文法化を 4 段階で説明した。

（5） *Lovely*（Adamson 2000 : 48 ; 53）
a . Stage 1（1500–1700）
HUMAN PROPENSITY /（PHYSICAL PROPERTY）ADJ. : ‘amiable’
b . Stage 2（1700–1800）

PHYSICAL PROPERTY /（VALUE）ADJ.: ‘physical beautiful’

c. Stage 3（1800–1850）
VALUE /（PHYSICAL PROPERTY）ADJ.:（subjectivisation, left configuration）

d. Stage 4（1850–1900）
INTENSIFIER（obligatory co-occurrence with another adj., left configuration）

形容詞 *lovely* は，第 1 段階である 16 世紀・17 世紀に HUMAN PROPENSITY として主に用いられたが，第 2 段階の 18 世紀に PHYSICAL PROPERTY が，第 3 段階の 19 世紀前半には主観的な VALUE が，それぞれ中心的な意味となって後，第 4 段階の 19 世紀後半から 20 世紀までに文法化によって強意語 INTENSIFIER になったとされる。

（6） Descriptive adjective＞Affective adjective＞Intensifier（Adamson 2000 : 55）

形容詞 *lovely* が Descriptive adjective（HUMAN PROPENSITY / PHYSICAL PROPERTY）から Affective adjective（VALUE）に，そして，最終的には Intensifier に変化した。一方，形容詞語順の観点から言えば，第 3 段階の 18 世紀前半に VALUE の意味を得た *lovely* が，限定形容詞の中で最も左側の位置に出現するようになったともされる。

この *lovely* の歴史的発達については，Fischer & Rosenbach（2000 : 19）が次のようにまとめている。図 1 に基づけば，More が Cheap Repository Tracts を出版していた 18 世紀末では，形容詞 *lovely* は Affective adjective に近づいており，複数の限定形容詞が使用される場合は最も左側の位置に出現するのではないだろうか。本稿ではこの予想を検証するため，後期近代英語期以降の形容詞 *lovely* の使用頻度と語順に関する量的分析を行なうことにした。

Descriptive adjective	→	Affective adjective	→	Intensifier
• referent-oriented	→	• speaker-oriented (subjective)	→	• increasingly subjective
• 2nd position within NP	→	• leftmost position within NP	→	• leftmost position ↓ syntactic re-analysis

（Fischer & Rosenbach 2000 : 19）

図 1　形容詞 *lovely* 発達図

3. 言 語 分 析

3.1 データ収集

Adamson（2000）で使用された A Representative Corpus of Historical English Registers（ARCHER）（質的分析）と *The Oxford English Dictionary* 引用データベース（量的分析）は，いずれも様々なジャンルが収蔵されている点で興味深い言語コーパスである。しかし，Cheap Repository Tracts のジャンルは「小説」に限定できるため，本研究の言語データは More と同性である女性作家の作品とした。また，形容詞 *lovely* の通時的変化を量的に検証するため，Cheap Repository Tracts の「前の時代」「同時代」「後の時代」という時代区分で行うことにした。その結果，「前の時代」からイギリス女性最初の職業作家とみなされる Aphra Behn（1640–1689），「同時代」からは Jane Austen（1775–1817）を，「後の時代」からは Virginia Woolf（1882–1941）をそれぞれ選び，Literature Online から電子テキスト版小説作品を収集した。

表 2 使用テキストと総語数

	Texts Used	Word Count	
		Text	Author
Behn	*Love-Letters Between a Nobleman and His Sister* : Part I（L1）	44,816	200,000
	Love-Letters Between a Nobleman and His Sister : Part II（L2）	59,656	
	Love-Letters Between a Nobleman and His Sister : Part III（L3）	63,889	
	Ornooko（O）	31,639	
Austen	*Pride and Prejudice*（PP）	121,999	200,000
	Northanger Abbey（NA）	78,001	
	Persuasion（P）	83,938	
Woolf	*Mrs Dalloway*（MD）	63,541	200,000
	To the Light House（TLH）	69,185	
	Voyage Out（VO）	62,774	
Total Word Count			600,000

表 2 にまとめたように，言語データ総語数 60 万語でそれぞれ 20 万語になるよう，Behn の *Love Letters* Part III（85,710 語），Austen の *Pride and Prejudice*（123,412 語），Woolf の *Voyage Out*（136,198 語）から語数を削減することで調整した。こうして作成した言語データに基づき，形容詞 *lovely* の分析を進めた。

3.2 Behn, Austen & Woolf の Affective Adjectives 分析

3.2.1 4 種の Affective Adjectives（*Lovely, Pretty, Nice, Sweet*）

まず言語分析では，意味範疇 VALUE に属する 4 種類の Affective adjectives を取り上げ，形容詞 *lovely* の出現傾向を含めた全体像を把握するように努めた。Adamson

(2000 : 62) でも *lovely* 以外の VALUE 形容詞である *sweet, goodly, nice* の調査結果も示されている。形容詞 *nice* は *lovely* 同様に Descriptive adjective から Affective adjective へ意味変化して使用頻度が増加する一方，*goodly* と *sweet* は使用頻度が減少していた。また，現代英語では *goodly* は古語であり，*sweet* の Affective adjective 用法 "dear to me" は連語的もしくは言語使用域で制限されるという。そこで本稿では，*goodly* の代わりに現代英語で Intensifier としても用いられる VALUE 形容詞 *pretty* を加え，*lovely, nice, sweet, pretty* の使用頻度をコンコーダンスソフト AntConc で調べた。その結果を表 3 にまとめた。

表 3　Affective Adjectives 4 種類の割合（全体）

	LOVELY	*PRETTY*	*NICE*	*SWEET*	Total
出現数	**175**	117	98	62	**452**
(%)	**(38.7%)**	(25.9%)	(21.7%)	(4.4%)	**(100%)**

この表 3 より，4 種類の Affective adjectives の全 452 例について，*lovely*（38.7%）の出現度合いが一番高く，*pretty*（25.9%）と *nice*（21.7%）が続き，*sweet*（4.4%）が最低であった。

次いで，4 種類の Affective adjectives 詳細表を形容詞毎にまとめた。

表 4-1　Affective Adjectives 4 種類詳細表（形容詞毎）

	LOVELY	*PRETTY*	*NICE*	*SWEET*	Total
Behn	**136 (77.7%)**	29 (24.8%)	20 (20.4%)	20 (32.3%)	**205**
Austen	**10 (5.7%)**	67 (57.2%)	22 (22.4%)	24 (38.7%)	**123**
Woolf	**29 (16.6%)**	21 (18.0%)	56 (57.2%)	18 (29.0%)	**124**
Total	**175 (100%)**	**117 (100%)**	**98 (100%)**	**62 (100%)**	**452**

この表 4-1 では形容詞 *lovely* の結果に注目したい。「前の時代」Behn が全体の 77.7% を占めており，「同時代」Austen は 5.7% と著しく少なく，「後の時代」Woolf は 16.6% と Austen よりは比較的多いことが示されている。

最後は，作家毎の分析結果である。作家毎の分析詳細表である表 4-2 では，「前の時代」Behn では *lovely* の使用頻度が 66.3% であり，*pretty, nice, sweet* に比べて非常に高かった。「同時代」Austen では，*pretty* が 54.5% と使用頻度が一番高く，*lovely* が 8.1% で一番低かった。「後の時代」Woolf では，*nice* が 45.2% と使用頻度が一番高く，*lovely* の使用頻度は 2 番目に高いとはいえ 23.4% に留まっている。

以上の結果より，4 種類の Affective adjectives の中で *lovely* の使用の度合いが一番高かった理由は，「前の時代」Behn で多用されていたためであった。また，*sweet* は

表 4-2　Affective Adjectives 4 種類詳細表（作家毎）

	Behn	Austen	Woolf
LOVELY	**136（66.3%）**	10（8.1%）	29（23.4%）
PRETTY	29（14.1%）	**67（54.5%）**	21（16.9%）
NICE	20（9.8%）	22（17.9%）	**56（45.2%）**
SWEET	20（9.8%）	24（19.5%）	18（14.5%）
Total	**205（100%）**	**123（100%）**	**124（100%）**

Behn, Austen, Woolf 全員が同程度（3 割～4 割）使用している一方，Behn の *lovely*（66.3%），Austen の *pretty*（54.5%），Woolf の *nice*（45.2%）と目立って使用頻度が高い Affective adjectives があることも分かった。さらに，使用頻度が最も高い Affective adjectives を除き，Behn と Woolf では残りの形容詞の使用頻度に大きな差が見られなかったが，Austen では *lovely* の使用頻度だけが 8.1% と目立って低かった。よって，4 種類の Affective adjectives 調査では，Austen の *lovely* において，Behn と Woolf とは異なる使用傾向が見られた。

3.2.2　形容詞 *lovely* の限定形容詞語順構造

本項では形容詞 *lovely* の限定用法に焦点を当てる。

3.2.2.1　限定用法と叙述用法

まず，限定用法と叙述用法の出現頻度について分析した。

表 5　形容詞 *Lovely* の限定用法と叙述用法分析結果

	Behn	Austen	Woolf	Total
限定用法	127（93.4%）	3（30%）	17（58.6%）	**147（84%）**
叙述用法	9（6.4%）	7（70%）	12（41.4%）	**28（16%）**
Total	**136（100%）**	**10（100%）**	**29（100%）**	**175（100%）**

この表 5 で示されるように，形容詞 *lovely* 175 例の内訳は，限定用法 147 例（84%）と叙述用法 28 例（16%）であり，限定用法が圧倒的に多かった。これは，形容詞の限定用法が叙述用法より多い（Biber et al. 1999 : 506）という主張通りであった。作家毎の限定用法使用頻度では，Behn 127 例（93.4%），Austen 3 例（30%），Woolf 17 例（58.6%）であり，Austen は他の作家 2 名とは異なって叙述用法の使用頻度が高い結果となった。

3.2.2.2　形容詞 *Lovely* の限定用法構造分析

本稿では Biber et al. における現代英語の限定形容詞の基本構造に従って分類した。なお，複雑化を少しでも避けるために限定詞を除いた。

（7） 現代英語における限定形容詞配列モデル

Adverb＋adjective＋colour adjective＋participle＋noun＋head noun

（Biber et al. 1999 : 598）

この（7）の限定形容詞基本構造に沿って分類した結果が，次の表6である。

表6　形容詞 *Lovely* の限定用法構造分析結果表

形容詞の数	Behn	Austen	Woolf	Total
1種類	106（83.4%）	3（100%）	13（76.4%）	**122（82.9%）**
2種類	18（14.3%）	－	1（5.9%）	**19（13.1%）**
3種類	2（1.4%）	－	3（17.7%）	**5（3.4%）**
4種類	1（0.7%）	－	－	**1（0.6%）**
Total	**127（100%）**	**3（100%）**	**17（100%）**	**147（100%）**

この表6より，全体的な傾向として，限定形容詞1種類が122例（82.9%）と大部分を占めており，複数の限定形容詞は25例（17.1%）であった。また，複数の限定形容詞の内訳は，2種類19例（13.1%），3種類5例（3.4%），4種類1例（0.6%）であり，限定形容詞2種類の使用頻度が高かった。

（8） 形容詞 *Lovely* の限定形容詞配列（例）

a．1種類　*Miss Bennet's* ***lovely*** face（Austen : PP3）

b．2種類　*a* ***dear and lovely*** off-spring（Behn : Love1-43）

c．3種類　*their* ***lovely*** old sea-green brooches（Woolf : MD15）

d．4種類　*the* ***untouch'd, unspotted, and till then unwishing lovely*** maid（Behn : Love1-28）

また，同じく表6が示すように，作家別による限定形容詞種類は，1種類の使用頻度がBehn 83.4%, Austen 100%, Woolf 76.4%であり，どの作家も限定形容詞1種類が主であった。一方，複数の限定形容詞はBehn 4種類，Austen 1種類，Woolf 3種類であり，Austenの限定形容詞構造はBehnとWoolfとは明らかに異なっていた。

3.2.2.3　形容詞 *Lovely* の限定用法構造考察

Behn, Austen, Woolfの限定形容詞構造分析の結果，限定形容詞2種類以上の使用例が25例得られた。残念ながら本研究で収集したデータでは，Moreと「同年代」であるAustenの限定形容詞は1種類のみであった。そこで，BehnとWoolfについて，Adamson（2000）の提唱する意味変化と左方移動について検証するため，形容詞 *lovely* を「2番目以降」「最も左側」で分類した。

表 7　限定形容詞 2 種類以上の構造配列表

Lovely の位置	Behn	Woolf	Total
2 番目以降	13（61.9%）	―	**14（53.8%）**
最 も 左 側	8（38.1%）	4（100%）	**12（46.2%）**
Total	**21（100%）**	**4（100%）**	**25（100%）**

表 7 より，形容詞 *lovely* の出現位置について，Behn「2 番目以降」13 例（61.9%），Woolf は「最も左側」4 例（100%）であった。

（9）　Behn の形容詞 *lovely* の位置

a．my *soft* ***lovely*** Maid　（Behn : Love1-24）

b．thou ***lovely*** *fickle* Maid　（Behn : Love1-45）

Adamson（2000）の主張であれば，Behn が執筆活動を行った 17 世紀後半は “Stage 1（1500-1700）HUMAN PROPENSITY ADJ. : ‘amiable’” にあたる。たしかに（9a）“my soft *lovely* Maid” での意味範疇は HUMAN PROPENSITY と解釈でき，形容詞 *lovely* の語順も 2 番目以降である。しかし，同じ名詞 *Maid* を修飾する（9b）“thou lovely fickle Maid” における形容詞 *lovely* は，“Stage 3（1800-1850）VALUE ADJ. :（subjectivisation, left configuration）” と解釈すべきであろう。この場合の *lovely* は「皮肉」を含む VALUE 形容詞と機能しており，名詞 *Maid* ではなく形容詞 *fickle* を修飾するために「最も左側」に出現していると考えられる。

また，Behn の限定形容詞 2 種類構造の中には，*lovely* 以外の限定形容詞が「2 番目以降」「名詞句内で最も左側」のどちらにも出現する例があった。

（10）　形容詞 *lovely* と *dear* の共起

a．by whom he has a ***dear and lovely*** off-spring　（Behn : Love1-43）

b．thou ***lovely dear*** delight of my transported Soul!　（Behn : Love1-39）

この（10）の *lovely* と *dear* の共起例において，*lovely* が（10a）では「2 番目以降」，（10b）では「最も左側」に出現しており，語順の揺れを感じさせる。（10a）の *lovely* が *off-spring*（HUMAN）を修飾するため，意味範疇は HUMAN PROPENSITY であり，Adamson（2000）の主張に合致する。その一方，（10b）は聞き手に呼びかける呼称表現である。つまり，*lovely* が Affective adjective として *dear delight* を修飾することで，話し手が親密さを協調していると解釈できる。Behn の形容詞 *lovely* 使用例には，他にも *charming* など特定の形容詞と共起する際に語順の揺れが見られており，Adamson（2000）が論じる意味変化と語順構造がすでに始まっているのかもしれない。

Woolf の形容詞 *lovely* の限定用法は，表 7 で示されたように，いずれも「最も左側」に形容詞 *lovely* が出現した。

（11）　Woolf の形容詞 *lovely*（例）
hung with Japanese prints and ***lovely*** *old* chairs and tables　（Woolf : VO3）

本研究で Woolf の小説から得られた複数の限定形容詞は，（11）“***lovely*** *old* chairs and tables” のように全てが「非人間の事物」を修飾している。Adamson（2000）の “Stage 3（1800-1850）VALUE　ADJ.:（subjectivisation, left configuration）と “Stage 4（1850-1900）INTENSIFIER（obligatory co-occurrence with another adj., left configuration）” にあるように，Woolf の形容詞 *lovely* は意味変化と語順変化を示唆する結果となった。

3.2.2.4　Behn, Austen, Woolf 分析のまとめ

本稿では，Hannah More と同性で「前の時代」Behn,「同時代」Austen,「後の時代」Woolf の小説より 20 万語ずつ収集し，総語数 60 万語における形容詞 *lovely* の分析・考察を行なった。その結果，More と「同時代」であった Austen 作品における *lovely* について，「前の時代」Behn と「後の時代」Woolf との相違点が見いだされた。形容詞 *lovely* の出現数では，Austen は Woolf よりも少なかった。限定形容詞と叙述形容詞の比率では，Austen だけが限定形容詞の比率が低かった。形容詞 *lovely* と共起する限定形容詞では，共起する形容詞数が Behn 3 種類と Woolf 2 種類に対し，Austen は 0 種類であった。従って，Austen の使用する形容詞 *lovely* の使用傾向は，Behn と Woolf とは明白に異なっていた。

4. Cheap Repository Tracts

最後に，Hannah More の Cheap Repository Tracts における形容詞 *lovely* の使用傾向について触れたい。

まず，Behn, Austen, Woolf と同様に，4 種類の Affective adjectives の出現について分析を行ってみよう。More が Cheap Repository Tracts として出版した中で，最も有名な *The Shepherd of Salisbury Plain* を取り上げたい。この作品は Chapbooks の体裁に合わせるために 2 部作で出版されており，総語数は 9,713 語（第 1 部 4,377 語　第 2

表 8　*The Shepherd of Salisbury Plain* の Affective Adjectives 4 種類

	LOVELY	*PRETTY*	*NICE*	*SWEET*	Total
Part I	−	4（80%）	2（66.6%）	−	**6（75%）**
Part II	−	1（20%）	1（33.7%）	−	**2（25%）**
Total	−	**5（100%）**	**3（100%）**	−	**8（100%）**

部 5,336 語）である。

この表 8 より，More の代表作である *The Shepherd of Salisbury* には，形容詞 *lovely* が全く使用されておらず，他の 3 種類の Affective adjectives でも *pretty* 5 例と *nice* 3 例という結果であった。

収集できた Affective adjectives があまりに少なかったため，More の作品を収集した書籍を言語資料として追加分析を行った。この追加分析で取り上げたのは，*The Shepherd of Salisbury Plain, and Other Tales* で，More による短編小説が収められていて総語数 163,621 語である。Behn, Austen, Woolf の各 20 万語コーパスには 3 万 6 千語ほど及ばないが，Cheap Repository Tracts の 2 部作（9,713 語）よりははるかに多いため，全体的な傾向をつかむために参照したい。

表 9　Affective Adjectives 4 種類詳細表（作家毎）

	Behn	Austen	More	Woolf
LOVELY	**136（66.3%）**	10（8.1%）	1（1.5%）	29（23.4%）
PRETTY	29（14.1%）	**67（54.5%）**	**44（64.6%）**	21（16.9%）
NICE	20（9.8%）	22（17.9%）	21（30.9%）	**56（45.2%）**
SWEET	20（9.8%）	24（19.5%）	2（3.0%）	18（14.5%）
Total	**205（100%）**	**123（100%）**	**68（100%）**	**124（100%）**

この表 9 より，More が使用した Affective adjectives 68 例のほとんどが，*pretty*（64.6%）と *nice*（30.9%）であり，*sweet*（3 %）と *lovely*（1.5%）と大変少なかった。Behn, Austen, Woolf の結果と比べ，「同時代」の More と Austen は，*lovely* の使用頻度が目立って少ない一方，*pretty* の使用頻度が過半数以上を占めて一番多い。More と Austen が形容詞 *lovely* の使用を避けた要因が，時代性であるのか，個人的特性であるのか，それとも別のものなのか，残念ながら本研究で見極めることは難しい。ただし，More の Cheap Repository Tracts について Scott（2009）は次のように述べている。

（12）［More］was in full agreement with Locke’s argument that unless the child is inwardly motivated, education will not be successful and she believed that in order to children to learn, teachers must work with their natures, not against them. This is why her Cheap Repository stories（1795–98）looked identical to the secular Chapbooks they were intended to replace, with the religious message concealed within a tale that aimed at engaging the interests of the readers.（Scott 2009 : 54）

つまり，（12）にあるように，More は Cheap Repository Tracts に宗教メッセージを潜ませるように執筆していたが，福音派の宗教家達にとっては More の作品は宗教的な

観点からいえば物足りないものだった。その一方，More の Tracts 作品は “in style, language, and plot most were vivid and skilful propaganda”（Pedersen 1986 : 97）と評されてもいる。More がどのような形容詞でもって物語を “vivid” にしていたのか，興味が深まるばかりである。

5. お わ り に

本研究では，18 世紀末に Hannah More が Chapbooks に似せて出版した Cheap Repository Tracts に関し，形容詞研究の方向性を探索することが目的であった。そのため，Adamson（2000）が提唱した形容詞の意味変化と語順変化に基づき，「前の時代」Aphra Behn，「同時代」Jane Austen，「後の時代」Virginia Woolf の小説における形容詞 *lovely* を量的に分析した。その結果，Behn と Woolf においては，Adamson（2000）で論じた形容詞 *lovely* の限定用法における意味変化と語順変化の相関性を示唆することができた。また「同時代」Austen の Affective adjectives 使用傾向について，「前の時代」Behn および「後の時代」Woolf との相違点も明示できた。しかし，各作家の言語データを 20 万語に揃えたため，出版された全ての作品を網羅することができておらず，言語データ自体に問題も多い。形容詞 *lovely* を始めとした Affective adjectives 分析に関する考察をさらに深めるためには，作家毎の出版物を全て網羅した言語データを作成し，1000 語毎の出現数カウント等による調整を行なった上で，社会的要因や文脈等を考慮した質的研究も必要となるであろう。

同時代に創作活動を行なった More と Austen であるが，現代英語で Affective adjectives に属する形容詞頻度分析により，*lovely* をほとんど使用しない代わりに *pretty* を多用していたことが明らかとなった。この形容詞使用傾向は個人的嗜好による偶然だったのだろうか。それとも形容詞 *lovely* の意味変化・語順変化が何らかの形で関わっていたのであろうか。Cheap Repository Tracts の形容詞研究を進めながら，その答えを見つけていきたい。

Works Cited

Primary Sources :

Literature Online. Retrieved on 30 October 2008 from http : //lion.chadwyck.co.uk/.

More, Hannah.（1859）*The Shepherd of Salisbury Plain, and Other Tales*. New York : Derby & Jackson.

Project Gutenberg. Retrieved on 30 May 2020 from https : //www.gutenberg.org/.

Secondary Sources :

Adamson, Sylvia.（2000）“A Lovely Little Example : Word Order Options and Category Shift in the Premodifying String.” In O. Fischer, et al.（eds.）*Pathways of*

Change : Grammaticalization in English. Amsterdam : Benjamins, 39–66.

AntConc. Retrieved on 30 May 2020 from http : //www.laurenceanthony.net/software/antconc/.

Biber, Douglas, Stig Johansson, Geoffrey Leech, Susan Conrad, Edward Finegan. (1999) *Longman Grammar of Spoken and Written English*. London : Longman.

Bloomfield, Leonard. (1933) *Language*. New York : Holt.

Carter, Ronald and Michael McCarthy. (2006) *Cambridge Grammar of English : A Comprehensive Guide*. Cambridge : Cambridge UP.

“Cheap Repository Tracts.” *Hannah More's Cheap Repository Tracts*. British Library. Retrieved on 28 April 2020 from https : //www.bl.uk/collection-items/hannah-mores-cheap-repository-Tractss.

Dixon, R. M. W. (1982) *Where Have All the Adjectives Gone? and other essays in Semantics and Syntax*. Berlin, New York, Amsterdam, 1982.

Finell, Anne. (1996) “Discourse Markers and Topic Change : A Case-Study in Historical Pragmatics.” Ph. D dissertation, University of Cambridge.

Fischer, Olga and Anette Rosenbach. “Introduction.” In O. Fischer, et al. (eds.) *Pathways of Change : Grammaticalization in English*. Amsterdam : Benjamins, 1–38.

Hilton, Mary and Jill Shefrin. (2009) *Educating the Child in Enlightenment Britain : Beliefs, Cultures, Practices*. London and New York : Routledge.

石田崇・松谷緑 (2015)「形容詞配列と階層性：日英における統語構造の比較と認知言語学 的考察」『山口大学教育学部研究論叢』65(1) : 71–78.

Kelly, Gary. (1987) “Revolution, Reaction, and the Expropriation of Popular Culture : Hannah More's Cheap Repository.” *Man and Nature/L'Homme Et La Nature*, 6 : 147–159.

Matthews, Peter H. (2014) *The Positions of Adjectives of English*. Oxford : Oxford UP.

中野節子・水井雅子・吉井紀子 (2009)『ファンタジーが生まれるまで』 JULA 出版

Nikitochkina, Iryna. (2017) “Function, Semantics and Pragmatics of Evaluative Adjectives in Fictional Discourse.” *Eureka : Social Humanities*, 6 : 45–51.

O'Mally, Andrews. (2018) *Literary Cultures and Eighteenth-Century Childhoods*. London : Palgrave MacMillan.

Pedersen, Susan. (1986) “Hannah More meets Simple Simon : Tracts, Chapbooks, and Popular Culture in Late Eighteenth-Century England.” *Journal of British Studies*, 25(1) : 84–113.

Scott, Anne. (2009) “Evangelicalism and Enlightenment : The Educational Agenda of Hannah More.” In Mary Hilton and Jill Shefrin (Eds.) *Educating the Child in Enlightenment Britain : Beliefs, Cultures, Practices*. London and New York : Routledge, 41–75.

Swan, Toril. (1988) “The Development of Sentence Adverbs in English.” *Studia Linguistica*, 42(1) : 1–17.

Traugott, Elizabeth, C. (1995) "The Role of Discourse Markers in a Theory of Grammaticalizaiton." Paper presented at ICHL XII, Manchester, 1995. Retrieved on 4 September 2020 from https : //web.stanford.edu/~traugott/papers/discourse.pdf.

Watanabe, Ayano and Yoko Iyeiri. (2020) "Explaining the Variability of Adjective Comparatives and Superlatives : Entering the Twenty-First Century." *WORD*, 66 (2) : 71-97.